

令和 3 年 8 月 5 日現在

機関番号：23601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04459

研究課題名(和文) 認知症トータルケアプログラムを適用した地域横断的看護力向上システムの構築

研究課題名(英文) Development of the community-based, integrated nursing care system applied with the dementia total care program

研究代表者

渡辺 みどり (Watanabe, Midori)

長野県看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60293479

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,000,000円

研究成果の概要(和文)：高齢者ケアに関わる看護師308名のデータを収集し、重回帰分析を行った。その結果、専門職的自律性は、ストレス対処能力($r = .313, p < .001$)、急性期病院の認知障害 高齢者に対するパーソン・センタードケアをめざした看護実践自己評価($r = .276, p < .001$)、看護師経験年数($r = .138, p < .01$)に関連していた。(R² = .23)

看護職員90名に、認知症者の意思決定支援、認知症者の身体合併症の管理に関する教育的介入を行った。その結果、病院内の多職種連携のもと高齢者の意思能力を正しく査定する必要性および病棟看護チームとの連携し決定課題に応じた経時的な意思能力の評価の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介入したA町、I町の高齢化率は著しく高く、医療過疎という深刻な課題に直面していた。このような地域に認知症トータルケアプログラムを適用し、地域の認知症看護力の強化を目指した。その結果、医療過疎地域の認知症看護力を推進する看護職者の専門職性の向上に貢献した。

地域横断的看護力の向上のために、多職種協働チームと病棟看護チームが連携し、高齢者の意思能力に関する情報共有と継続的なアセスメントを在宅に至るまで行っていく必要性が確認された。このことは、認知症者とその家族が住み慣れた地域で主体的に生活するために重要な視点であり、地域包括ケアシステムの充実に貢献する知見である。

研究成果の概要(英文)：A multiple regression analysis was used data collected from 308 nurses involved in care for older people. The analysis showed that professional autonomy in nursing was related to the Sense of Coherence Measurement Scale ($r = .313, p < .001$), Scale of Nursing Practices for Elderly with Cognitive Impairment with the Aim of providing Person-centered Care in Acute Hospitals ($r = .276, p < .001$), and length of years working as a nurse ($r = .138, p < .01$) (R² = .23).

This study provided 90 nursing staff with educational interventions related to decision-making support for people with dementia and management of physical complications for people with dementia. The results show the necessity to correctly assess the decision-making ability of older people under the care of multidisciplinary cooperation in a hospital. The findings suggest that certified nurses in dementia nursing need to cooperate with ward nursing teams to continuously assess the decision-making ability of older people.

研究分野：老年看護学

キーワード：認知症 トータルケア 地域横断的看護力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

対象地域に認知症トータルケアプログラムの適用を開始した時点においては、対象地域(A町, I町)の認知症看護認定看護師および認知症ケアに関わる看護師の実践能力、判断能力、対処能力は明らかにされていなかった。また対象地域の基準となる全国の認知症看護認定看護師および認知症ケアに関わる看護職者の実践能力、判断能力、対処能力とそれに関連する要因もまた明らかにされていなかった。

A町、I町の認知症ケアに関わる看護職者の教育ニーズ調査もまた充分に行われていなかったため、看護職者の教育ニーズに沿ったコンサルテーション介入・教育的介入の実施とその評価は行われてこなかった。

2. 研究の目的

前述の背景を踏まえ、以下の目的で本研究を行った。

認知症看護認定看護師がより力を発揮して働くことを目指し、認知症看護認定看護師の組織における実践能力としてSOC(Sense of Coherence, ストレス対処能力・健康保持能力概念)と組織コミットメントの関係を明らかにする。

認知症看護認定看護師と認知症高齢者に関わる看護師の認知症看護実践能力と対処能力の違いを明らかにする。

認知症看護認定看護師の組織コミットメントおよび職務満足感に関連する要因を明らかにする。

認知症高齢者に関わる看護師の専門職的自律性に関連する要因を明らかにする。

対象地域の看護職者の教育ニーズを把握し、教育的介入を行いその効果を検討する。

3. 研究の方法

目的 ~ については、認知症トータルケアプログラムを適用した地域横断的看護力向上システムの介入対象となる地域の看護職者の実践力・判断力・対処力を測定するための全国の認知症看護認定看護師 835名(以下DCN)と臨床経験・地域・病院規模をマッチングした認知症高齢者看護に関わる看護師 1856名(以下Ns)に対し、「急性期病院の認知障害高齢者に対する「パーソン・センタードケアをめざした看護実践自己評価尺度」「看護師の自律性測定尺度」「コミットメント 尺度」「ストレス対処能力」により構成される質問その結果、DCN322(回収率38.6%)、Ns308(回収率16.6%)の回答を得た。

目的 については、対象地域の病院に勤務する看護職者 210名を対象に質問紙調査により「看護実践で苦慮していることと学びたいこと」に対する回答を得た。この結果に基づき看護部長、教育担当者とともに教育的介入内容と方法を検討し、教育的介入を行った。

4. 研究成果

DCNのSOCと組織コミットメントの合計得点の相関は、<キャリア>($r=.403, p<.001$)と<仕事全般>($r=.512, p<.001$)の2つにおいては正の相関が認められた。項目間相関においては、「あなたが毎日していることは、喜びと満足を与えてくれる」と仕事全般「今の仕事が好きである」($r=.527, p<.001$)、「現在の仕事に満足している」($r=.506, p<.001$)、「今の仕事に喜びを感じる」($r=.641, p<.001$)などの計6項目に相関が認められた。一方、SOCと組織コミットメントの下位概念<キャリア>との相関は認められなかった。

ストレス対処能力を持っていることで、仕事に対する「喜び、満足、好き」など好意的な感情を有していることが確認された。DCNがこのような感情を維持し生き生きと活動できる

ことは、組織の中での役割、実践能力を発揮することにつながることを示唆された。

DCN (285名)とNs (171名)の2群間で認知症看護実践自己評価(因子・合計得点)とSOC(合計得点)を比較した結果、SOCは、合計得点においてDCNとNsとの間に有意差は認められなかった($t=-.97, p>.05$)。一方、認知症看護実践自己評価の因子得点(F1~4)と合計得点全てにおいてDCNの平均ランクが有意に高かった($p<.01$)。

DCNとNsでは、SOCに有意差を認めなかったが、認知症看護実践自己評価においてDCNの得点が高く有意差を認めた。すなわち、DCNが認知機能と個人に合う独自性のあるケア、本人の意思や価値観を尊重するケアなどの認知症看護実践を行っている可能性が示唆された。

DCNのキャリアコミットメントを従属変数として、重回帰分析を行った結果、SOC($\beta=.33, p<.001$)、SSNPECIAPCAH($\beta=.23, p<.001$)、看護専門職の自律性($\beta=.19, p<.01$)、相談・教育への対応数($\beta=.19, p<.01$)と関連があった($R^2=0.31$)。

DCNのキャリア発達は、生活世界への見方・向き合うこと、認知症看護実践を振り返ること、専門職としての自律性を高めること、認定看護師として相談・教育的対応を行うことにより促されると考えられた。

DCNの「職務満足尺度」を従属変数とし臨床経験年数、DCN経験年数、相談・教育活動、ストレス対処能力、急性期病院の認知障害高齢者に対する「パーソン・センタードケアをめざした看護実践自己評価」、「専門職的自律性」を説明変数として重回帰分析を行った結果、職務満足は、SOC($\beta=.45, p<.001$)、NAMS($\beta=.25, p<.001$)と有意に関連していた($R^2=.31$)。

このことから、自分の置かれている状況を理解しそれに向き合い、さらにその状況を自分にとって意味のある出来事であるなどと思えるストレス対処能力、看護専門職としての自律性の高いDCNは、職務満足感が高い傾向にあると考えられた。

Nsの専門職的自律性を従属変数として重回帰分析の結果、SOC($\beta=.313, p<.001$)、SSNPECIAPCAH($\beta=.276, p<.001$)、看護師経験年数($\beta=.138, p<.01$)はNAMSに有意な関連が認められた($R^2=.23$)。Nsの専門職的自律性は、ストレス対処能力が高く、認知機能障害者に対する看護実践の振り返り自己評価が高い者、看護師経験年数が長い者ほど高い傾向にある。したがって、看護師のストレス能力を高め、認知機能障害者に対する看護実践の振り返りをしつつ看護師経験年数を重ねることによって看護師の専門職的自律性が高められる可能性が示唆された。

対象地域の看護職者への質問紙調査の結果、「認知症高齢者の意思決定能力の査定」「認知症高齢者の意思決定支援」が最も教育ニーズとして高かった。教育内容と方法について討議した結果、講義および具体的な事例を用いた検討会から構成される教育方法が適切であるとの結論に至った。認知症高齢者の意思決定能力のアセスメント方法と認知症の重症度別に軽度、中等度、重度の人の意思決定支援の在り方、考え方について討議した。その結果、意思能力のアセスメント方法の重要性、ガイドラインを適用したケアの実践方法について理解が得られたとする参加者からの主観的評価が得られた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Midori Watanabe, Emi Hosoda, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Sayuri Kaneko, Kieko Yasuda, Chikako Nakahata
2. 発表標題 Factors Related to Career Commitment of Certified Nurse in Dementia Nursing
3. 学会等名 11th Asia/Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Emi Hosoda, Chikako Sone, Sayuri Kaneko, Kieko Yasuda, Chikako Nakahata
2. 発表標題 Comparison of professional autonomy between Certified Nurses in Dementia Nursing and other Nurses in Japan
3. 学会等名 11th Asia/Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曽根千賀子、渡辺みどり、細田江美、有賀智也、金子さゆり、安田貴恵子、中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師と看護師の認知症看護実践自己評価とストレス対処能力の比較
3. 学会等名 第32回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細田江美、渡辺みどり、曽根千賀子、有賀智也、金子さゆり、安田貴恵子、中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の職務満足感に関連する要因
3. 学会等名 第32回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺みどり, 細田江美, 有賀智也, 金子さゆり, 安田貴恵子, 中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の組織における実践能力第1報 認知機能障害高齢者への看護実践自己評価と自律性の関連
3. 学会等名 日本老年看護看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曽根千賀子, 渡辺みどり, 細田江美, 有賀智也, 金子さゆり, 安田貴恵子, 中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の組織における実践能力 第2報 SOCと組織コミットメントとの関係
3. 学会等名 日本老年看護看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺みどり, 曽根千賀子, 有賀智也, 金子さゆり, 安田貴恵子, 中畑千夏子
2. 発表標題 高齢者に関わる病院看護師の専門職的自律性に関連する要因
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Midori Watanabe, Emi Hosoda, Chikako Sone, Tomoya Aruga, Sayuri Kaneko, Kieko Yasuda, Chikako Nakahata
2. 発表標題 Factors Related to Career Commitment of Certified Nurse in Dementia Nursing
3. 学会等名 11th Asia/Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Emi Hosoda, Chikako Sone, Sayuri Kaneko, Kieko Yasuda, Chikako Nakahata
2. 発表標題 Comparison of professional autonomy between Certified Nurses in Dementia Nursing and other Nurses in Japan
3. 学会等名 11th Asia/Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根千賀子、渡辺みどり、細田江美、有賀智也、金子さゆり、安田貴恵子、中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師と看護師の認知症看護実践自己評価とストレス対処能力の比較
3. 学会等名 第32回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細田江美、渡辺みどり、曾根千賀子、有賀智也、金子さゆり、安田貴恵子、中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の職務満足感に関連する要因
3. 学会等名 第32回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺みどり、細田江美、有賀智也、金子さゆり、安田貴恵子、中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の組織における実践能力第1報 認知機能障害高齢者への看護実践自己評価と自律性の関連
3. 学会等名 日本老年看護看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根千賀子, 渡辺みどり, 細田江美, 有賀智也, 金子さゆり, 安田貴恵子, 中畑千夏子
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の組織における実践能力 第2報 SOCと組織コミットメントとの関係
3. 学会等名 日本老年看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細田江美, 渡辺みどり, 安田貴恵子, 金子さゆり, 中畑千夏子, 曾根千賀子, 有賀智也
2. 発表標題 認知症看護認定看護師の実践活動に関する実態調査
3. 学会等名 第31回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	細田 江美 (Hosoda Emi) (10290123)	長野県看護大学・看護学部・講師 (23601)	
研究 分担者	有賀 智也 (Aruga Tomoya) (10708069)	長野県看護大学・看護学部・助教 (23601)	
研究 分担者	安田 貴恵子 (Yasuda Kieko) (20220147)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	千葉 真弓 (Chiba Mayumi) (20336621)	長野県看護大学・看護学部・准教授 (23601)	
研究分担者	小野塚 元子 (Onozuka Motoko) (30449508)	長野県看護大学・看護学部・講師 (23601)	
研究分担者	池上 千賀子(曾根千賀子) (Ikegami Chikako) (40336623)	長野県看護大学・看護学部・講師 (23601)	
研究分担者	金子 さゆり (Kaneko Sayuri) (50463774)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	
研究分担者	中畑 千夏子 (Nakahata Chikako) (60438174)	長野県看護大学・看護学部・講師 (23601)	
研究分担者	坂田 憲昭 (Sakata Noriaki) (70158921)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	
研究分担者	北山 秋雄 (Kitayama Akio) (70214822)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------